

浮牛城跡調査概要

遺跡名 浮牛城（ふぎゅうじょう）跡
所在地 北上市口内町松坂地内
調査期間 平成 21 年 5 月 19 日～平成 20 年 7 月 10 日（予定）
調査目的 試掘調査
調査担当 北上市立埋蔵文化財センター

1. 見つかった遺構

的場跡（東二の平）では、1995 年度の調査において、整地層や溝跡、柱穴群、焼土などが確認されています。今回試掘したのは、その隣接地であることから、同様の成果が得られるものと予想されました。調査の結果、以下の遺構が確認されました。

A. 本丸の裾に沿って延びる溝状の遺構

1995 年度の調査で確認された溝跡の続きです。本丸の裾に沿って延び、搦手の本丸への登り口付近で消滅することが確認されました。炭を含む灰褐色の土で埋め立てられています。

B. 的場の平坦面を分断する地形

今回新たに見つかりました。①の溝状遺構とほぼ直交し、的場（東二の平）の中央を横断するように窪む地形です。①の埋め立て後に、礫を含む黄褐色土で埋め立てられています。

2. 絵図との比較

中嶋氏入部直前の貞享 4（1687）年に描かれた絵図（参考資料 1）を見ると、今回確認された A・B の性格が分かります。B は屋敷地とされる二曲輪（二の丸）と本丸とを結ぶ搦手の道（裏道）が描かれた位置と一致します。A は大手と搦手とを結ぶ通路と考えられます。

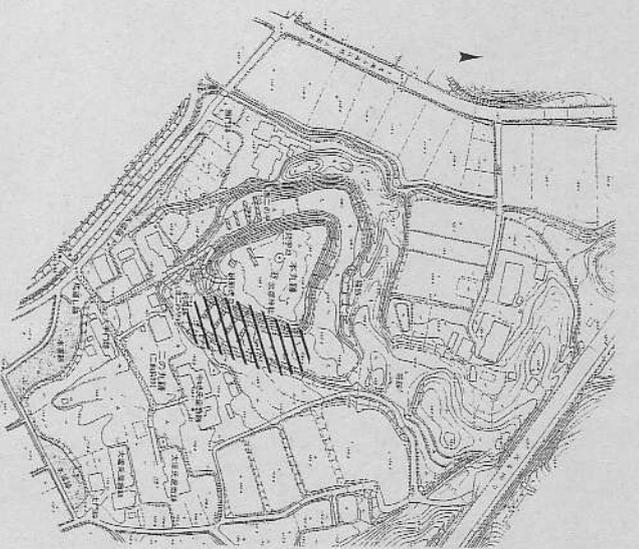
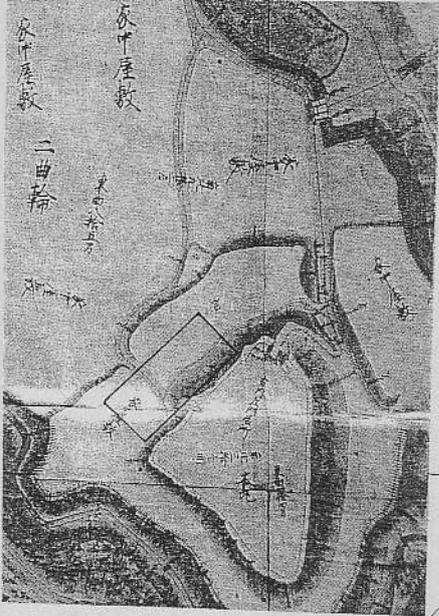
江戸時代中期とされる別の絵図（参考資料 2）を見ると、B の道だけが描かれ、A の通路は見当たりません。A の通路は、貞享 4 年以後の比較的早い段階で埋め戻された可能性があります。一方 B の道は、一定の期間存続した後に埋め立てられたものと思われます。

3. 見つかった遺物と調査区の性格

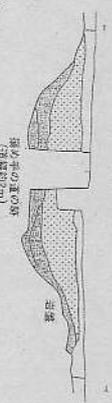
遺物は、16 世紀（仙台藩以前）～現代までの幅広い時期のものが主に表土から見つかっています。もっとも、下段の屋敷跡（二曲輪）に比べるとその量は少なく、生活の痕跡があまり見られません。少なくとも調査区付近は、本丸と二の丸を結ぶ搦手にあたり、しばしば地形整形が行われたことが伺われます。

4. まとめ

- 試掘調査の結果、江戸時代中期における浮牛城搦手の状況が明らかになりました。
- 歴史的に貴重な遺産である浮牛城を、より良い状況で後世に伝えてゆくことが望まれます。



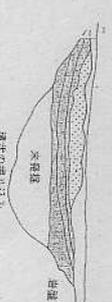
④での土の埋まり方



①での土の埋まり方



②での土の埋まり方



③での土の埋まり方



1995年度の調査区

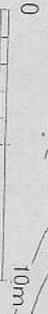
溝状遺構
大手と搦手とを結ぶ
道と考えられます。
堀状に作られており、
防御用も兼ねています。

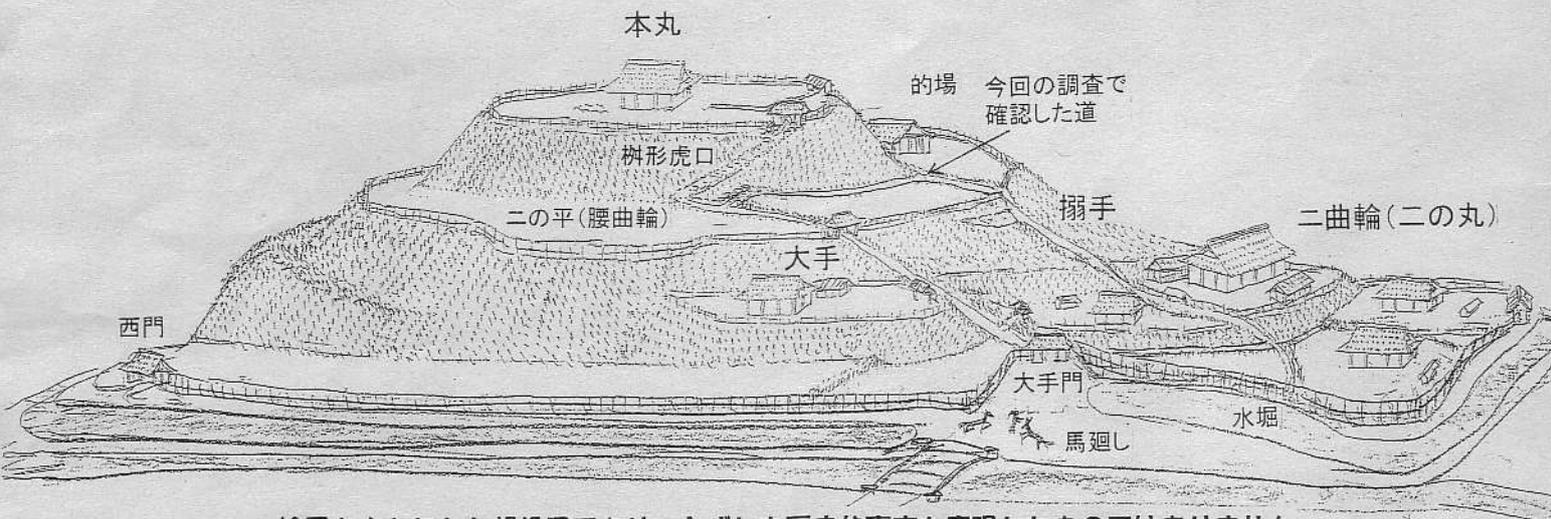
二曲輪(屋敷)

搦手の道
二曲輪(屋敷)と
本丸を結ぶ裏道です。
側溝と思われる溝も
確認されました。

今回の調査区

二の平(東側)の調査状況 1:200





* 絵図をもとにした想像図であり、必ずしも歴史的事実を表現したものではありません

浮牛城の絵図(上)と想像図(下)

埋蔵センター行事予定

埋蔵文化財センター公開…9月5日(土) (みちのく民俗村まつり開催日) 9:00~17:00

埋蔵文化財展:「埋蔵文化財センター20年のあゆみ」(仮題)

…1月7日(木)~11日(月) 10:00~19:00 江釣子ショッピングセンター・パル・コスモホール

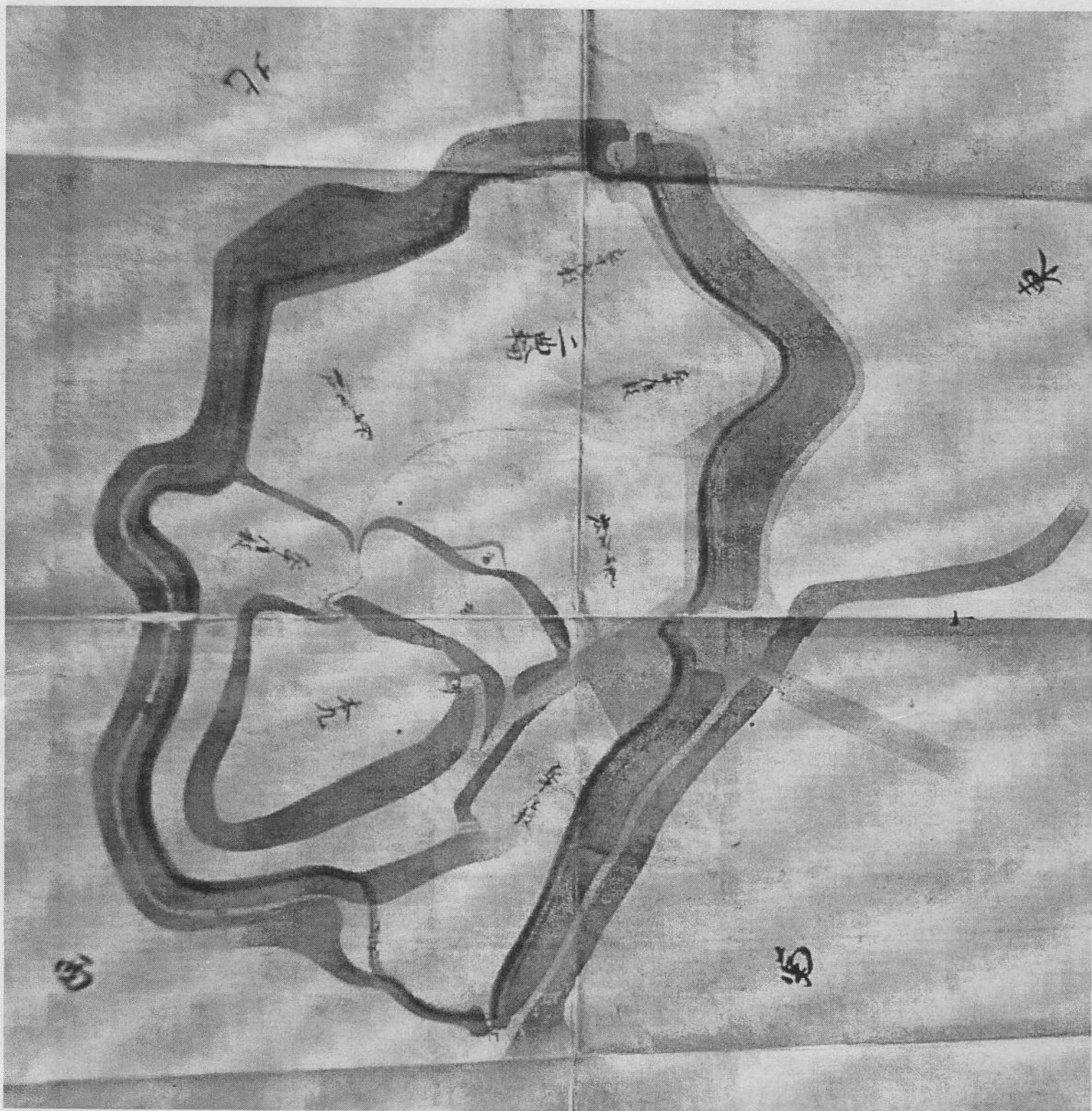
発掘調査報告会…1月9日(土) 13:00~17:00 日本現代詩歌文学館講堂

平成21年度市内遺跡の調査成果、埋蔵文化財センター20年の主な調査成果

問い合わせ先: 北上市立埋蔵文化財センター0197-65-0098



「江刺郡上口内村館并館下繪図」(貞享4年=1687年)部分(宮城県立図書館蔵)



江戸時代中頃の浮牛城の絵図 部分 (宮城県立図書館蔵)